

石牟礼道子さん作詞の楽曲「アニマの鳥」を竹製パイプオルガンで演奏する佐藤岳晶さん(左)。右はふいごを操作する山下真奈美さん=天草市

天草出身 石牟礼さん作詞「アニマの鳥」

祈りの聖歌 古里で収録

天草市河浦町の天草コレジヨ館で13日、京都市の金剛能楽堂で6月12日に再演される故石牟礼道子さん原作の新作能「沖宮」の上演前に披露する、石牟礼さん作詞の楽曲「アニマの鳥」で使う音源の収録が行われた。



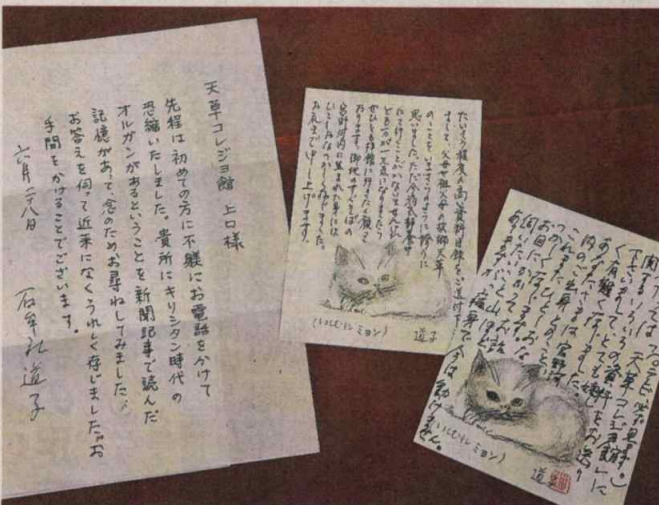
「アニマの鳥」は、天草出身の石牟礼さんが天草・島原の乱を題材にした歴史小説「春の城」の中で、キリシタンの聖歌として作詞。飢饉や重税の苦しみの果てに、信徒たちが秘めてきた信仰心を吐露し蜂起へと向かう中で、天草四郎に従う女童たちにより祈りの歌として歌われる。

録音では、「アニマの鳥」を作曲した京都女子大准教授の佐藤岳晶さん(45)が自ら演奏。オルガン操作などは、地元の子楽器グループ「コレジヨの仲間」が協力した。「竹製のパイプオルガンは400年前の西洋音楽との出合いを想起させる貴重な楽器。美しい文化融合の響きを取り入れた演奏を目指した」と佐藤さん。また、生前の石牟礼さん



※収録時の動画はQRコードから見るができます。

天草コレジヨ館 竹製パイプオルガン響く



石牟礼道子さんから「コレジヨの仲間」に送られてきた手紙=天草市

んが同館のオルガンに興味を持っていたことが、「コレジヨの仲間」との手紙のやり取りから判明。手紙には、「復元さに感激した。とても貴重なことが分かり、天草な体験でした」と感慨深を誇りに思う。(病氣療げだった。 当日チケットは完売だが、オンライン配信(5千円)で視聴できる。購入は新作能「沖宮」オンライン視聴権販売サイト <https://peatix.com/event/1901702/view> から。 (谷川剛)

「たことか」と書いた。自分の思いも石牟礼さんと重なり、幸せだった」と振り返った。音源は「アニマの鳥」の冒頭と間奏で使われる予定。

17日付 「サボテン」で、オレンを咲かせは「白檀」

宇土市は あり、空き 会場を常設 から接種会 ることしし チン対策子 と、県内の

は、熊本市 ンはません のあらしが 会場は予

座って問診 待機まで済 スに区分け が約40プー 体調を尋ね 注射してい

宇土市は あり、空き 会場を常設 から接種会 ることしし チン対策子 と、県内の